

『好きになる救急医学 第2版』正誤表

この度は、標記書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
標記書籍に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

3刷をお持ちの方へ

p16	15行目	(以下の文を追加) さらには、2014年（平成26年）4月より、心肺停止前の重度傷病者に対する静脈路確保および輸液、血糖測定ならびに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与が、一定の条件を満たす研修を修了した救急救命士に認められることになりました。	
p40	4行目	(誤) 2007年	(正) 2004年
p79	正誤表2ページ目に記載の内容に差し替え		
p100	下から10行目	(誤) 脊椎	(正) 脊柱
		(誤) 5個の腰椎から構成	(正) 5個の腰椎と、仙骨、尾骨から
p112	下から2行目	(誤) 水泡	(正) 水疱
p113	表9.1 SDBとPDBの外見 2行目	(誤) 水泡	(正) 水疱

1～2刷をお持ちの方へ 上記に加えて下記も訂正してください

p8	1行目	(誤) 平均約7分	(正) 平均約8分
p29	8行目	(誤) 平均7分	(正) 平均8分
p60	16行目	(誤) 現在は独立行政法人国立大学機構	(正) 現在は国立大学法人
p64	下から3行目	(誤) 石原知事	(正) 石原知事（当時）
p65	1行目	(誤) 石原都知事	(正) 石原都知事（当時）

2011年(平成23年)の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物(がん)で35万7千人、第2位は心疾患19万5千人、第3位は肺炎12万5千人、第4位は脳血管疾患12万4千人となっており、5位に不慮の事故(6万人)。6位に老衰(5万2千人)、7位に自殺(2万7千人)と続いています(図1)。これまで死因の第3位は脳血管疾患でしたが、平成23年に僅差で肺炎に入れ替わりました。

年齢階層別に分けると、子どもや青少年では不慮の事故が死因の第1位を占めています。不慮の事故の大部分と自殺の一部が、外傷に分類されるものと考えられ、我が国の外傷死亡者数は4万人を超えるものと思われます。

一方、消防庁の統計資料(救急・救助の現況)によれば、平成22年度中の救急搬送人員は、急病308万人、一般負傷69万人、交通外傷56万人、自傷5万2千人、労働災害4万3千人等となっています。交通事故による死亡者が約7千5百人であることから、その裾野に約100倍の負傷者がいることとなります。近年は飲酒運転が厳しく取り締まられるようになり、死亡者数はかなり減少してきました(図2)。

外傷が若年者に多発することを考えると、死亡者数以上に社会の損失が大きいことがわかります。さらには、若年者が外傷により自立できない障害を負うと、社会は高齢障害者の何倍もの負担を背負うこととなります。このように、外傷はその実数以上に社会への影響が大きいと考えられます。

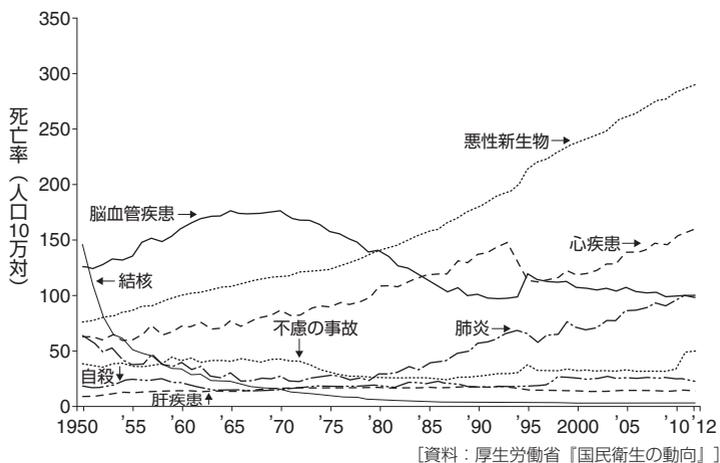


図1 主要死因別死亡率の推移